

「蒔絵額 雪散らし」 美しい料紙のイメージを蒔絵に写しました。さまざまな雪輪紋で雪の舞う様を表現しました。壁や床の間を飾る現代の絵画のように蒔絵もインテリアとして楽しんでいただきたく、また、縦にも横にも掛けられる図柄としました。



「香合 氷梅」 氷の割れ目を意匠化した「氷裂文」を光沢のある鮑貝で描き、全体に蒔いた銀平目粉を青漆で塗り固めて研ぎ出し、冷たい氷の中から春の訪れを知らせる「氷梅」を表現しました。



「袈裟環 黒龍」 僧侶がまとう袈裟を結び合わせるリング「袈裟環」に、躍動する龍を描き、金の平目粉を龍の鱗に一つひとつに置いて鱗らしい光沢を表現しました。スカーフ筒などにもお使いいただけます。



近藤 香菜

2005年京都伝統工芸専門学校(現 京都伝統工芸大学校)卒業後、下出蒔絵司所入所。蒔絵師下出祐太郎氏の下で、京都迎賓館の調度や、皇居梅の間の拭き漆飾り櫛の制作に携わる。2010年「京もの認定工芸士」認定。2013年「第36回京仏壇・京仏具技術コンクール展」にて京都府知事賞を受賞。

〒600-8335
京都市下京区醒ヶ井通り松原上がる住吉町484
下出蒔絵司所
TEL.075-361-0320 FAX.075-351-1325

ふだんは京仏具に蒔絵を施す仕事をしていいますが、伝統の技術を重んじながら、どうすれば生
活の中で使っていただけのかを自身の課題とし
て制作しています。スプーンなどのカトラリーや
額装した絵画のような作品など、新しい分野に
も挑戦しています。

伝統の技を駆使して
蒔絵の可能性を探る

◆京もの認定工芸士とは…
京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。

京もの認定工芸士 第42号

こんどう
かな
近藤 香菜

